

マイ避難カード作成支援モデル事業 実施状況

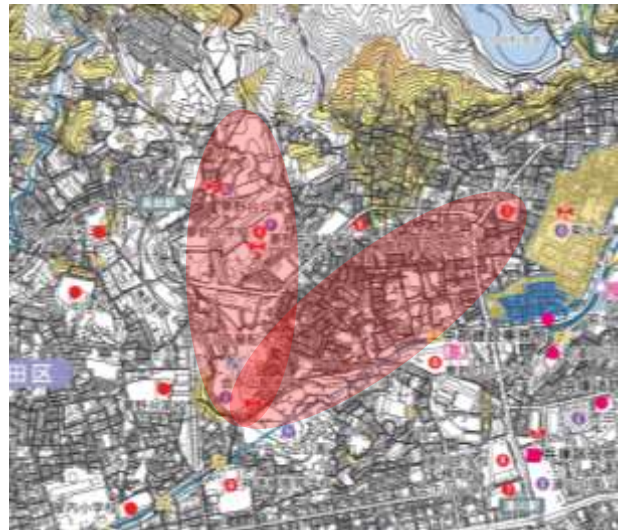
R1. 9. 25

市町		実施場所	想定災害	ワークショップ 実施時期
神戸	神戸市	ひよどり地区防災福祉コミュニティ 夢野南地区民生児童委員協議会 (兵庫区)	土砂	9月16日(祝月)
西播磨	太子町	石海(せっかい)南地区	浸水	9月4日(水)
	佐用町	家内(けない)地区	浸水 土砂	9月10日(火)
但馬	豊岡市	①城崎地区 ②奈佐地区	浸水 土砂	①6月23日(日) ②9月28日(土)
	新温泉町	数久谷(すくのたに)地区	土砂	8月18日(日)
淡路	洲本市	神子(かみこ)住宅町内会	浸水	9月15日(日)
	南あわじ市	沼島	浸水 土砂	9月21日(土)

マイ避難カード作成支援モデル事業 経過報告

モデル地区概要

- ◆団体名 : ひよどり地区防災福祉コミュニティ、夢野南地区民生児童委員協議会
- ◆所在地 : 神戸市兵庫区
- ◆想定災害 : 土砂災害
- ◆世帯数等 : 4,100 世帯、8,900 人
- ◆特徴 : 震災後、共助意識を高めるために市内全域で結成された自主防災組織の1つ地区内の一部が土砂災害警戒区域に指定されている。
神戸市事業「土砂災害からの避難説明会」に申込みがあった。



モデル事業実施状況

(1) ワークショップ（土砂災害からの避難説明会）

- ◇日時 : 令和元年9月16日（月・祝）11:00～12:00
- ◇場所 : 夢野地区 地域福祉センター（神戸市兵庫区）
- ◇参加者 : 住民49名、市委託事業者5名、市3名、県1名
- ◇内容 : ①土砂災害の説明（自宅の危険性、避難場所等）
②土砂災害 避難マップ作成



(2) 避難訓練（予定）

- ◇日時 : 令和元年10月12日（土）
- ◇場所 : 神戸市立夢野中学校
- ◇参加者 : 住民、市委託事業者、市
- ◇内容 : ①避難マップを用いた避難訓練
②避難マップの検証、危険箇所の確認

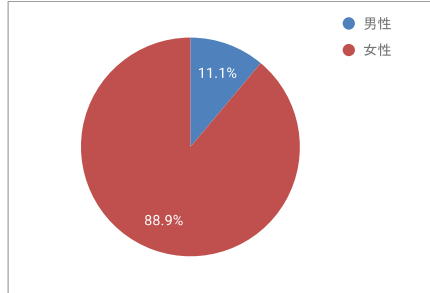


みんなで学ぶ「土砂災害からの避難」受講者アンケート

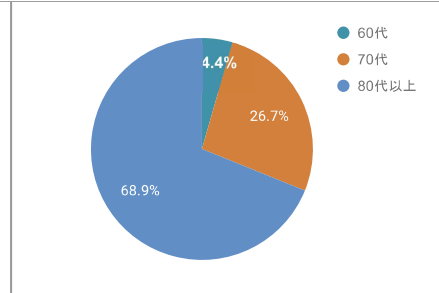
報告日	2019年9月16日(月)		記録者	高橋	
受付番号	5	区名	兵庫区	団体名	ひよどり防コミ、夢野民児協
開催日	2019年9月16日(月)		実施時間	11:00 ~ 12:10	
開催場所	夢野地域福祉センター		当日参加人数	51 人	
講師	5 人		名前	室崎 石崎 中田 小島 高橋	
実施方式	ワークショップ	アンケート回答数	49 人	回答率	96 %

問8 受講者の属性

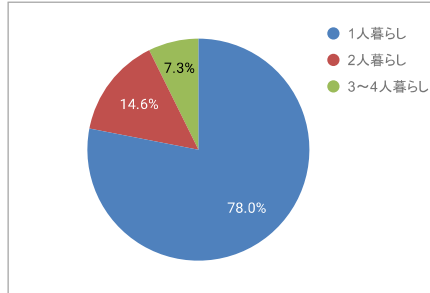
○性別



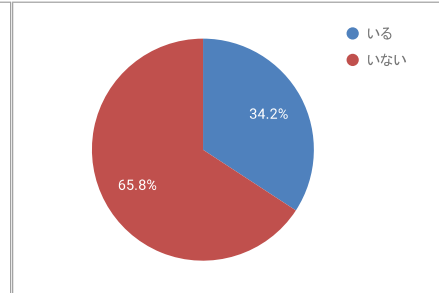
○年齢



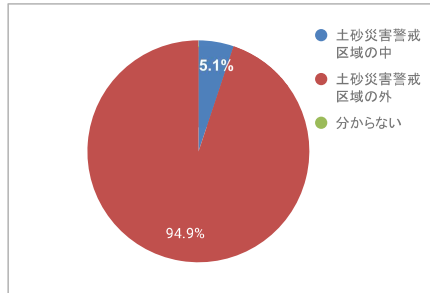
○同居の家族



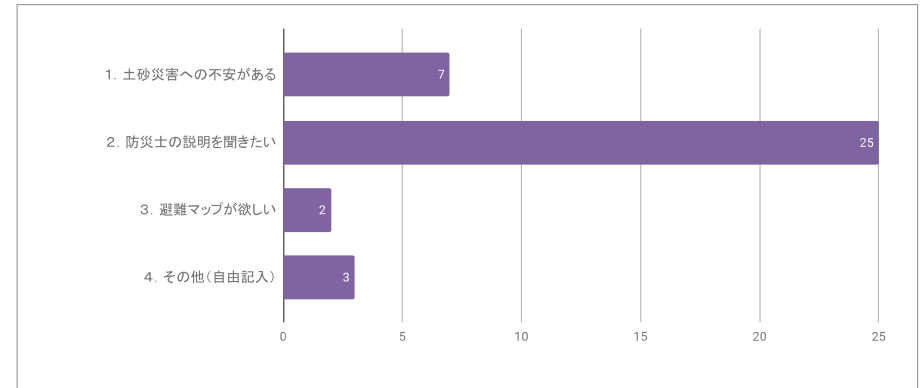
○避難に時間がかかる人がいるか



○自宅のエリア

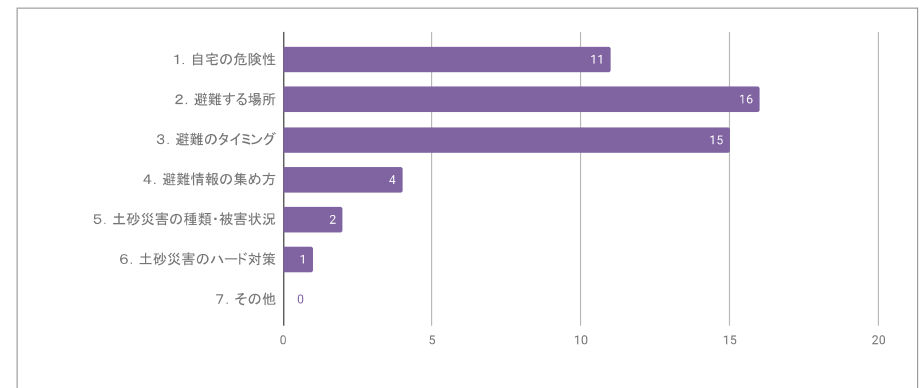


問1 説明会に参加してみようと思った理由(複数選択可)



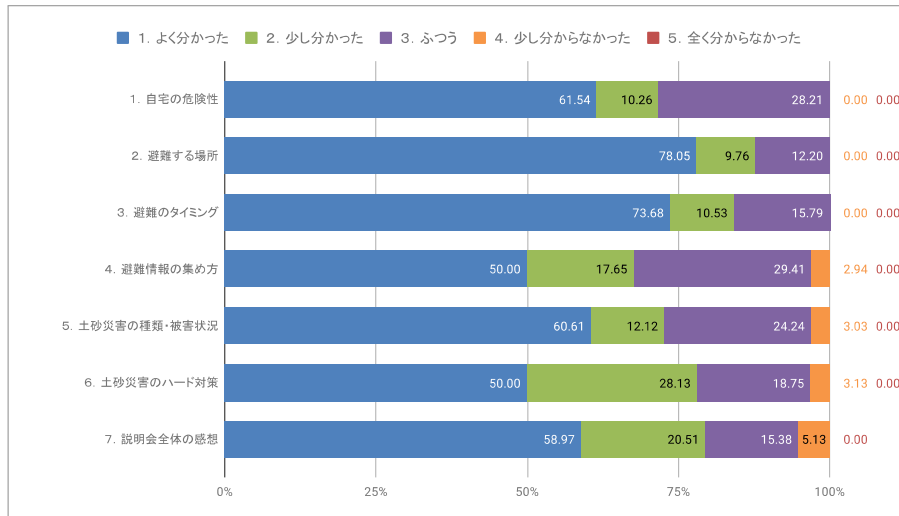
<その他の内容>

問2 土砂災害について、具体的に知りたいこと(複数選択可)

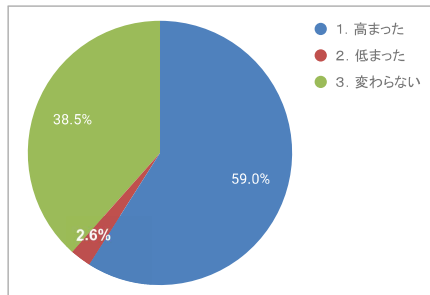


<その他の内容>

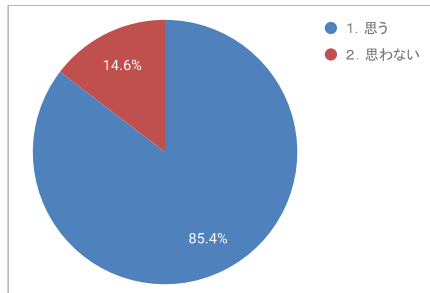
問3 説明会の内容の理解度



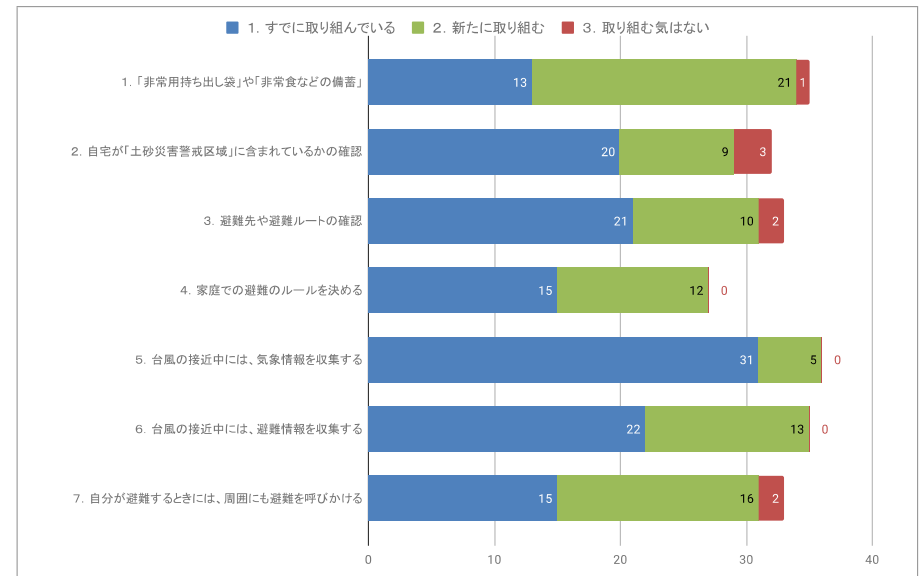
問4 説明会の内容を聴いて、避難の意識は変化したか



問5 説明会の内容をふまえ、災害の発生に備えて話し合ってみようと思うか



問6 すでに家庭で取り組んでいること、これから新たに取り組もうと思うこと



問7 その他、問5の内容以外に新たに取り組もうと思う内容

・ハザードマップ外で崩落がありました。古い石積等弱っているものがあるので気をつけたい

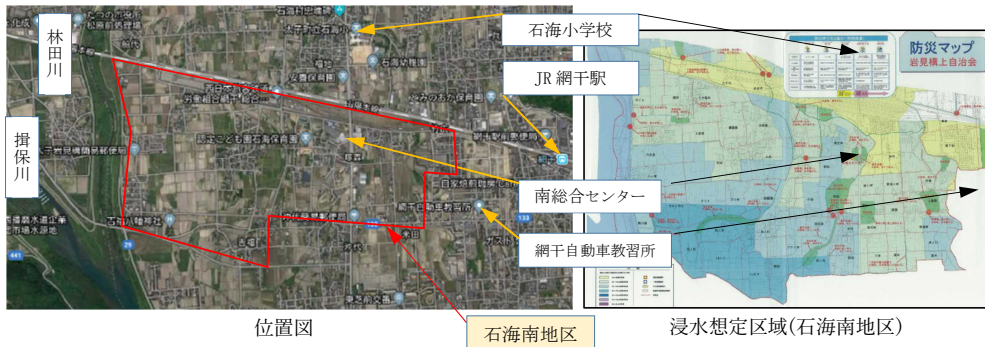
問8 説明会の内容や講師の説明についての意見

- ・わかりやすくお話を聞きました
- ・ありません
- ・うまく説明してくれました
- ・だいたいわかった

マイ避難カード作成支援モデル事業 経過報告

モデル地区概要

- ◆地区名 : 太子町石海(せっかい)南地区
- ◆対象人数 : 約 900 世帯 9 自治会
- ◆想定災害 : 浸水災害
- ◆特徴 : 河川に隣接し、田畑と住宅が混在する平坦な土地
参加自治会の大半の世帯が浸水想定区域内 (0.5~3.0m) に居住



モデル事業実施状況

(1) 事業説明会

- ◇日時 : 令和元年 8 月 9 日 (金) 10:00~12:00
- ◇場所 : 太子町役場 3 階ホール (災害対策室)
- ◇参加者 : 地区内 9 自治会長、町 3 名、県 2 名
- ◇内容 : 事業主旨、避難の重要性について説明



事業説明会の様子

(2) ワークショップ

- ◇日時 : 令和元年 9 月 4 日 (水) 19:00~21:30
- ◇場所 : 太子町立南総合センター
- ◇参加者 : 住民 29 名、有識者 1 名、神戸地方気象台 2 名、町 3 名、県 2 名
- ◇内容 : ①気象情報について (気象台)
②避難の必要性について (有識者)
③危険箇所の確認、避難カードの作成 (町)



ワークショップの様子

- ◇特徴 : 全 9 自治会から役員 2~4 名が参加し、自分の自治会ごとの避難カードを作成
後日、参加した役員から自らの自治会住民へマイ避難カード作成を展開予定

(3) マイ避難カード作成例



- 【確認!】テレビ、ラジオ、役場からのメール、太子町防災無線、太子町アプリ 等
- 【いつ?】警戒レベル 3(4)、警報が出たとき、役場からの連絡、経験のない豪雨 等
- 【どこに? (昼)】石海小学校、南総合センター
【どこに? (夜)】南総合センター、自治会公民館、自宅 2 階 等
- 【どのように? (昼)】家族と一緒に、徒歩で、車で一人暮らしの人を誘う、声をかける
【どのように? (夜)】車で、徒歩で、自宅待機 等

自治会毎の避難カードを作成

参加者意見 (アンケート含む)

(良かった点)

- ・避難の必要性、危険箇所、逃げ時、避難先等について理解・認識が深まった。
- ・避難経験がなかったが、今後、いざという時は避難行動を行いたい。
- ・今まで災害がなかったため安心していましたが、改めて危機意識を持ちたい。

(課題点)

- ・避難所に全員入れるのか心配
- ・要援護者を誰がサポートするのか
- ・実際に本番で避難できるか不安 (自分ひとりでは避難しづらいなど)

考 察

課 題	ワークショップでの取組・今後の展開
・ワークショップ開催前、参加者の多くは、避難勧告等が発令されても避難する必要はあるとは思っていなかった。	→事前説明会やワークショップに参加した住民の避難意識の向上がみられた。
・参加者の多くが南総合センターを自らの地区の避難先と認識していたが、9 自治会の住民が避難すると収容人員を超える恐れがあることがわかった。	→住民と町が相談し、南総合センターの他、適切な避難場として小学校、隣接市の自動車教習所を確認することができた。ワークショップの開催を通じて住民と町の意思疎通が促進できた。
・今回のワークショップに参加した自治会役員が、気象や避難に関する専門知識、カード作成を自治会内の住民にどう説明していくかが課題	→地域でのワークショップ開催をサポートできる人材の育成 (防災特別推進員等の活用)、標準的な説明用資料の作成が必要
・要支援者の避難を誰がサポートするか決まっていない。	→今後、要支援者の個別支援計画をさらに進めていく必要がある。

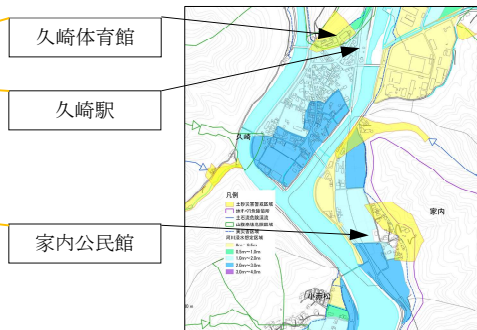
マイ避難カード作成支援モデル事業 経過報告

モデル地区概要

- ◆地区名 : 佐用町家内(けない)地区
- ◆対象人数 : 22世帯72人(地区内の多数の世帯が参加)
- ◆想定災害 : 土砂災害・浸水災害
- ◆特徴 : 小規模集落(全22世帯)、住民の多くが60代以上
住民同士の横のつながりが強い
多くの世帯が浸水想定区域内及び土砂災害警戒区域内に居住
H21台風第9号により浸水被害、住民の多くが家内公民館2階に避難



位置図



浸水想定・土砂災害警戒区域

モデル事業実施状況

(1) 事業説明会

- ◇日時 : 令和元年7月10日(水) 19:00~20:00
- ◇場所 : 佐用町家内公民館
- ◇参加者 : 住民17名、町2名
- ◇内容 : 事業主旨、避難の重要性について説明

(2) ワークショップ

- ◇日時 : 令和元年9月10日(火) 18:50~20:30
- ◇場所 : 佐用町家内公民館
- ◇参加者 : 住民20名、有識者1名、町2名、県2名
- ◇内容 : ①防災マップづくり(町)
②避難の必要性について(有識者)
③避難カードの作成(町)

- ◇特徴 : 地区内の多くの世帯が参加
2班に分かれて防災マップを作成

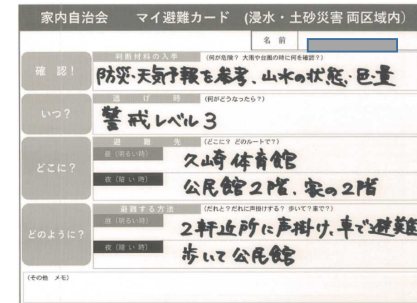


ワークショップの様子(有識者講義)

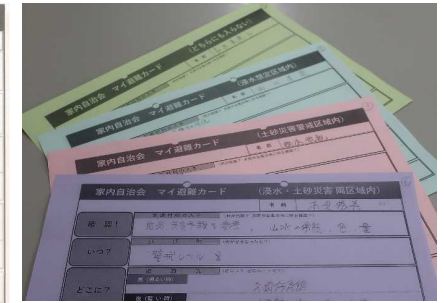


ワークショップの様子(防災マップ作成)

(3) マイ避難カード作成例



個人毎にカード作成



カードを4種類用意
(浸水、土砂、浸水・土砂、どちらもなし)

参加者意見(アンケート含む)

(良かった点)

- ・避難の必要性、危険箇所、逃げ時、避難先等について理解・認識が深まった。
- ・今回を機に避難行動を行いたい。
- ・住民同士で情報共有できたことが良かった。
- ・H21台風第9号到来時、消防団の呼びかけで避難できた。

(課題点)

- ・避難場所(久崎体育館)が少し遠い。
- ・安全な避難場所の確保が個人や集落ではできない。
- ・H21台風第9号到来時、久崎体育館に行くまでの道路が浸水し、危険で行けなかった。

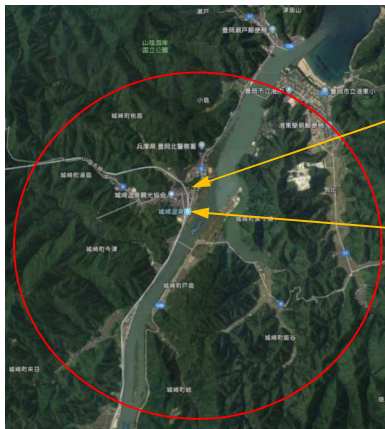
考察

課題	ワークショップでの取組・今後の展開
・H21災害を経験している住民が大半(参加者の6割が避難経験有)であり、防災意識は比較的高いが、逃げ時・場所の認識には個人差がある。	→ワークショップを通じて、住民の避難行動に対する意識がさらに向上した。 ワークショップは住民の防災意識向上に効果があり、今後も定期的な勉強会、情報共有の場が必要。
・指定避難所(場所)の久崎体育館(地区から1.2km)が土砂災害警戒区域内に、地域の緊急の避難場所の家内公民館が浸水想定区域内にあり、町、個人によって避難所の認識が異なることが分かった。	→避難場所や経路におけるハザードに留意したうえで、各個人に応じた逃げ時・場所をカードに記載した。
・H21災害時、久崎体育館までの道路が浸水し、危険で行けなかった。また、久崎体育館前のグラウンドが浸水したため車で移動すべきでないと考えている住民がいる。	
・工業団地に色がついていないことに着目した住民らが「工業団地に避難する」というカードを作成したが、実現するには工業団地と協議が必要である。	→工業団地と協議するなど実施できる体制づくりが求められる。

マイ避難カード作成支援モデル事業 経過報告

モデル地区概要 城崎地区

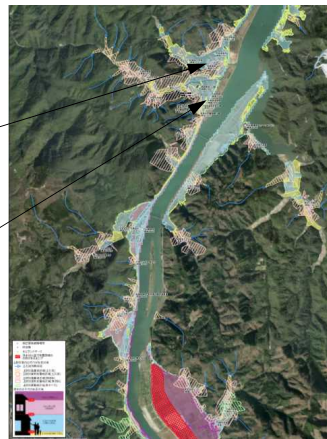
- ◆地区名 : 城崎地区 (旧城崎町)
- ◆対象人数 : 約1,560世帯31町内会
- ◆想定災害 : 浸水災害・土砂災害
- ◆特徴 : 全31町内会のうち24町内会の役員1~4名がワークショップに参加。
近隣の町内会が6班に分かれて、避難場所・避難の対象・避難のタイミングについて話し合った。後日、話し合った内容を「地域防災活動の手引き」にまとめ、「マイ避難カード」と共に全世帯に配布した。各世帯では、手引きを参考に「マイ避難カード」を作成する。



位置図

豊岡市城崎庁舎

JR城崎温泉



浸水想定・土砂災害警戒区域

モデル事業実施状況

(1) 事業説明会

- ◇日時 : 令和元年5月27日(月) 14:30~15:00
- ◇場所 : 豊岡市役所城崎庁舎2階 大会議室
- ◇参加者 : 地区内31町内会長、市1名、国土交通省の委託業者(CeMI)1名
- ◇内容 : 事業主旨、避難の重要性について説明

(2) ワークショップ

- ◇日時 : 令和元年6月23日(日) 19:00~21:30
- ◇場所 : 豊岡市役所城崎庁舎2階 大会議室
- ◇参加者 : 住民46名、国土交通省豊岡河川国道事務所1名、市6名、県1名、豊岡市



ワークショップの様子

社会福祉協議会2名、国土交通省の委託業者(CeMI)7名

- ◇内容 : ①自区(町内会)の紹介
②避難場所を考える
③避難の詳細を確認する
④避難のタイミングを考える



ワークショップの様子

(3) マイ避難カード

次ページ参照。

参加者意見(アンケート含む)

(良かった点)

- ・避難するタイミングをしっかりと町内会で情報共有することが必要
- ・今回のワークショップを通じて、避難行動に対する意識が醸成された。

(課題点)

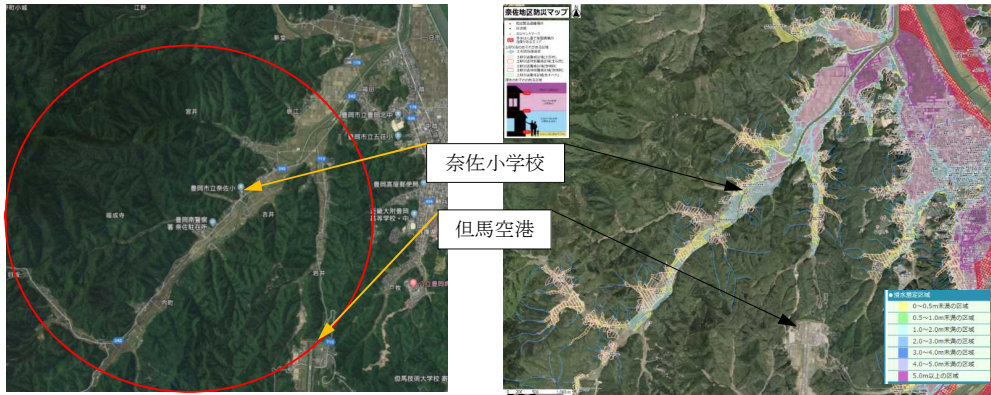
- ・避難のタイミングが分からない。
- ・日頃からの備えが不十分である。
- ・要援護者の避難支援が困難である。
- ・要援護者の避難支援体制が決まっていない。

考察

課題	ワークショップでの取組・今後の展開
・要援護者の避難支援体制が決まっていない。	→「いつ、だれが、だれを、どこへ」避難の支援をするか、事前に話し合い、個別支援計画を策定しておくことが重要である。本市では、2017(平成29)年度から、支援者の負担を軽減するため、ボランティア保険料を市が負担する取組を進めている。市が発する避難情報を避難のきっかけとするか、早目に自主避難するよう、啓発する。
・日頃からの備えが不十分である。	→本市では、2015(平成27)年度から8月の最終日曜日に、地震と風水害を交互に想定して市民総参加訓練を実施している。年に1度は訓練に参加することで、災害時に正しい避難行動をとれるようになる。また、本市では、避難行動として、「最善」、「次善」、「三善(みよし)」の取組を進めている。これは、避難行動を予め決めておき、刻々と変化する状況に応じて、適切に対応するものである。
・マイ避難カードの市民への浸透、普及	→本市では、毎年、市内の全ての自主防災組織について実態調査をしており、その回答でマイ避難カードの作成状況を把握し、フォローアップする。

モデル地区概要 奈佐地区

- ◆地区名 : 奈佐地区
- ◆対象人数 : 約390世帯12区
- ◆想定災害 : 浸水災害・土砂災害
- ◆特徴 : 城崎地区と同様の取組
12区の役員1～4名がワークショップに参加する予定
近隣の区ごとに4班に分かれ、避難場所・避難の対象・避難のタイミング等について話し合う予定
後日、話し合った内容を「地域防災活動の手引き」にまとめ、「マイ避難カード」と共に全世帯に配布し、各世帯では、手引きを参考に「マイ避難カード」を作成する。



位置図

浸水想定・土砂災害警戒区域

モデル事業実施状況 奈佐地区

(1) 事業説明会

- ◇日時 : 令和元年8月9日(金) 19:30～20:30
- ◇場所 : 奈佐地区コミュニティセンター 会議室
- ◇参加者 : 地区内8区長(4区長欠席)、市1名、豊岡市社会福祉協議会2名、国の委託業者(CeMI)1名
- ◇内容 : 事業主旨について説明し、自区紹介シートの記入を依頼した。

(2) ワークショップ

- ◇日時 : 令和元年9月28日(土) 13:30～17:00予定
- ◇場所 : 奈佐地区コミュニティセンター 多目的ホール

<記入例> マイ避難カード 氏名 **豊岡 太郎**

防災マップで自宅の災害リスク(災害の危険性)を確認してください。
▶自宅の浸水想定 3～5m ▶土砂災害警戒区域内かどうか 土砂災害警戒区域内

	最善(ベスト)	次善(セカンドベスト)	三善(サードベスト)
いつ	台風接近の前日まで	警戒レベル3 避難準備・高齢者等避難 開始の発令	警戒レベル4 避難勧告の発令
どこに	親類宅へ避難(宅) ご近所避難(宅)	指定緊急避難場所 ()	自宅の最上階(階)
どのように	迎えに来てもらう (誰に)	徒歩(分) 自家用車(分)	階段で
誰と	近所の(さん)と	家族(人)で	家族(人)で
何を持って (1～2日分) を持参する)	食料品 ・缶詰・レトルト(個箱) ・カロリーメイト(袋) ・チョコレート(袋) ・乾燥果実(袋)	飲み物 ・水(500ml本) ・お茶(500ml本) ・ジュース(500ml本) ・()	生活用品 ・懐中電灯・防寒着・着替え ・タオル・シート・雨具 ・携帯電話充電器・毛布 ・常備薬・お薬手帳 ・()

★お願い 大雨が降っているときは、建物の2階以上の、山とは反対側の部屋で過ごすようにしてください。

マイ避難カード 氏名

防災マップで自宅の災害リスク(災害の危険性)を確認してください。
▶自宅の浸水想定 _____ ▶土砂災害警戒区域内かどうか _____

	最善(ベスト)	次善(セカンドベスト)	三善(サードベスト)
いつ			
どこに			
どのように			
誰と			
何を持って (1～2日分) を持参する)	食料品	飲み物	生活用品

★お願い 大雨が降っているときは、建物の2階以上の、山とは反対側の部屋で過ごすようにしてください。

マイ避難カード作成支援モデル事業 経過報告

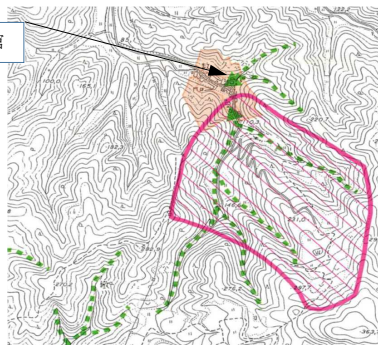
モデル地区概要

- ◆地区名 : 新温泉町数久谷(すくのたに)地区
- ◆対象人数 : 13 世帯 27 人
- ◆想定災害 : 土砂災害

- ◆特徴 : 山間部の谷筋に位置する小規模集落 (全 13 世帯)。住民の大半が 60 代以上
住民同士の横のつながりが強い
全世帯が土砂災害警戒区域内に居住



位置図



土砂災害警戒区域(町 H22.3)

モデル事業実施状況

(1) 事業説明会

- ◇日時 : 令和元年 7 月 11 日 (木) 18:30~20:00
- ◇場所 : 数久谷公民館
- ◇参加者 : 住民 14 名(全世帯が参加)、町 3 名、県 2 名
- ◇内容 : 事業主旨、避難の重要性について説明



ワークショップの様子

(2) ワークショップ

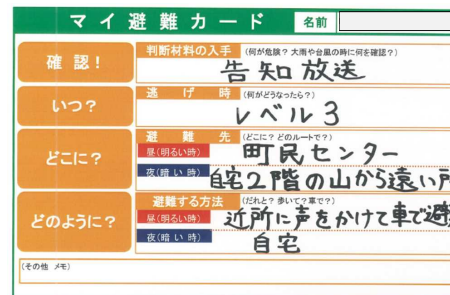
- ◇日時 : 令和元年 8 月 18 日 (日) 9:00~12:00
- ◇場所 : 数久谷公民館
- ◇参加者 : 住民 15 名、神戸地方気象台 2 名、町 3 名、県 2 名
- ◇内容 : ①気象情報について (気象台)
②危険箇所を知る、まち歩き (町)
③マイ避難カードの作成 (町)



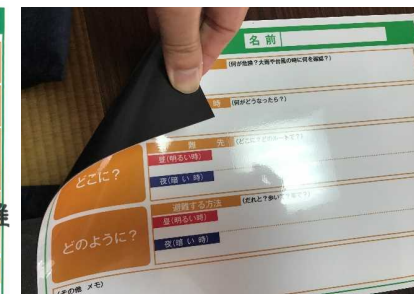
まち歩きの様子

- ◇特徴 : 全 13 世帯が参加し、地域全体で住民全員の具体的な避難方法を検討。マイ避難カードは町がマグネットシートに印刷したものに住民が記入

(3) マイ避難カード作成例



個人毎にマイ避難カードを作成



マグネットシートに印刷

参加者意見 (アンケート含む)

(良かった点)

- ・避難の必要性、危険箇所、逃げ時、避難先について理解・認識が深まった。
- ・ワークショップ参加をきっかけにして、今後、住民避難に努めたい。
- ・年に何回かは地域住民の防災意識確認が必要と感じた。
- ・日頃の住民同士のつながりが大切

(課題点)

- ・避難先が遠く、避難方法が課題
- ・車での避難ができるか心配
- ・地区が谷にあるため避難できるか心配
- ・足が悪く、近所の人に頼まないと迅速な避難が困難
- ・要支援者の避難支援の仕方が課題
- ・一度だけでは不安。(今後も防災知識に関する勉強会をしてもらいたい)

考察

課題	ワークショップでの取組・今後の展開
・住民が避難先と認識していた避難場所が土砂災害警戒区域内にあることがわかった。	→住民と町が相談し、新たな避難場所として町民センターを確認することができた。ワークショップの開催を通じて住民と町の意味疎通が促進した。
・参加者の多くは、これまで災害を経験したことがなく、自分の居住地域の危険箇所について知らない人がいた。	→防災に関する勉強会やまち歩きなど、ワークショップを行うことで、地域の危険箇所の共有が図られ、住民の避難意識が高まった。
・住民の多くが高齢者で、足が悪い、自力で避難ができないなど、避難方法に不安を抱えていることが判明した。	→住民が互いに呼びかけ合うとともに、共助で車に乗り合わせて避難する方法も検討できた。他の小規模集落における効果的な避難方法の検討の参考となることが期待できる。

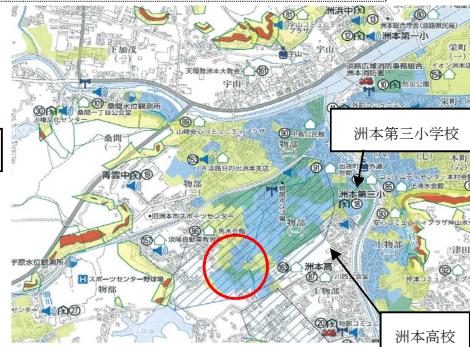
マイ避難カード作成支援モデル事業 経過報告

モデル地区概要

- ◆地区名 : 洲本市神子(かみこ)住宅町内会
- ◆対象人数 : 約 60 世帯 150 人
- ◆想定災害 : 浸水災害
- ◆特徴 : 河川に隣接し、田畑と住宅が混在する平坦な土地
0.5m~2.0m の浸水想定区域
指定避難所(洲本第三小学校)までの間に県立洲本高校あり



位置図



浸水想定区域

モデル事業実施状況

(1) 事業説明会(町内会の各隣保集会にて実施)

- ◇日時 : 令和元年 7 月 20, 27, 28 日、8 月 10 日
- ◇場所 : 貴船神社内集会所(近隣の集会所施設)
- ◇参加者 : 神子住宅町内会住民(自治会長)、市 1 名
- ◇内容 : 事業主旨、避難の重要性について説明

(2) ワークショップ

- ◇日時 : 令和元年 9 月 15 日(日) 9:30~12:00
- ◇場所 : 洲本市民交流センター
- ◇参加者 : 住民 28 名、有識者 1 名、神戸地方気象台 2 名、市 5 名、県 2 名
- ◇内容 : ①防災気象情報の活用について(気象台)
②近年の災害に学ぶ これからの防災・減災・縮災(有識者)
③危険箇所の確認(市)

- ◇特徴 : 全世帯に呼びかけ、希望した住民が参加
作成したマイ避難カードは市が回収し、マグネット加工し配布



防災学習の様子



マイ避難カード記入の様子

(3) マイ避難カード作成例

★ 神子住宅町内会 マイ避難カード ★	
いつ?	避難のタイミング (どんな状況で? どんな情報に注意する?) 警戒レベル4 避難着か告が発表された時
どこに?	避難する場所 (どこに? 徒歩で? 車で?) 指定場所1 洲本第三小学校 移動手段: 徒歩 指定場所2 (緊急時) 洲本高校(保健館) 移動手段: 徒歩
だれと?	一緒に避難する人 (誰と避難する? もしものときに連絡する人は?) ① [] 【連絡先: []】 ② [] 【連絡先: []】
(その他・メモ)	

★ 神子住宅町内会 マイ避難カード ★	
いつ?	避難のタイミング (どんな状況で? どんな情報に注意する?) 警戒レベル3
どこに?	避難する場所 (どこに? 徒歩で? 車で?) 指定場所1 貴雲中学校 移動手段: 車・徒歩 指定場所2 (緊急時) 第三小学校 移動手段: 車・徒歩
だれと?	一緒に避難する人 (誰と避難する? もしものときに連絡する人は?) ① [] 【連絡先: []】 ② [] 【連絡先: []】
(その他・メモ) 洲本高校は警戒レベル4でなければ門が開かない。	

個人毎にマイ避難カードを作成(マグネットシートに印刷)

参加者意見(アンケート含む)

(良かった点)

- ・避難経験がなかったが、今後、避難行動を行いたい。
- ・避難の必要性、危険箇所、逃げ時、避難先等について理解・認識が深まった。
- ・ワークショップに参加することで、情報をたくさん入手出来た。
- ・避難場所や避難のタイミングを市が説明してくれたので、カード作成がスムーズだった。

(課題点)

- ・障害者1級、介護要支援1なので、誰かの協力がないと1人で避難できない。
- ・自宅から最も近い県立高校に避難したい。
- ・ワークショップに参加できていない住民へどのように広めていくか。
- ・近隣の高齢者と避難する場合にどのくらい時間がかかるかわからない。
- ・マイ避難カードを作成したが、適切に避難できるか不安がある。
- ・避難したことがないので適切なタイミングがわからない。

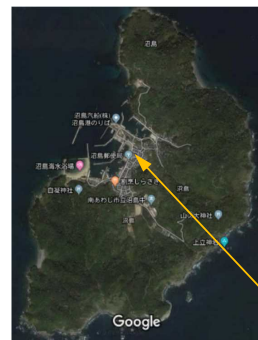
考察

課題	ワークショップでの取組・今後の展開
・障害者等、要支援者の避難の方法等について不安のある住民がいた。	→すでに自治会内で支援者を決めているが、周知の方法、内容の充実等について、さらに検討を進めていく必要がある。
・市の指定避難所(小学校(地区から800m))と住民の求める避難場所(高校(地区から500~600m))の認識が異なっていた。	→早めの避難のタイミングで避難すべき避難場所(小学校)と、緊急時に避難することができる避難場所(高校)とに整理
・ワークショップに参加出来ていない住民へ、マイ避難カードをどのように広めていくかが課題	→地域でワークショップ開催をサポートできる人材の育成が必要となる。
・近隣の高齢者と避難する場合にかかる時間がわからない、適切に避難できるか不安、適切なタイミングがわからない。	→マイ避難カードを活用した訓練を実施

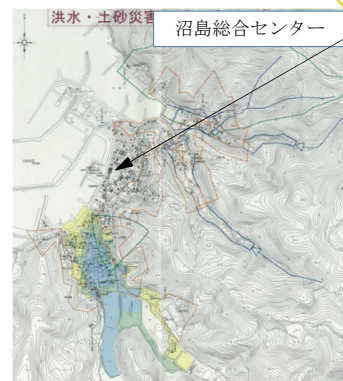
マイ避難カード作成支援モデル事業 経過報告

モデル地区概要

- ◆地区名 : 南あわじ市沼島(ぬしま)
- ◆対象人数 : 212 世帯 445 人
- ◆想定災害 : 土砂災害、浸水災害
- ◆特徴 : 淡路島の南海上に位置する離島
漁師町で住民の4割弱が70代以上
住民同士の横のつながりが強い
半数程度の世帯が土砂災害警戒区域内
又は浸水想定区域内に居住



位置図



土砂災害警戒区域・浸水想定区域(市 H26)

モデル事業実施状況

(1) 事業説明

4月頃に市沼島出張所を通じて自治会長へ依頼

(2) ワークショップ

- ◇日時 : 令和元年9月21日(土) 9:30~12:30
- ◇場所 : 沼島総合センター
- ◇参加者 : 住民30名、有識者1名、市6名、県2名
- ◇内容 : ①講話「豪雨時の避難の備え」(有識者)
②ハザードマップの説明(市)
③まち歩き、危険箇所の確認(有識者)
④マイ避難カードの作成(有識者)

- ◇特徴 : 5地区から6名ずつが参加
土砂災害、浸水害のほか、高潮災害もあわせて実施
地域ごとにハザードマップ上で危険箇所を確認した後、
まち歩きにて現地確認。
避難経路を確認後、個人ごとにマイ避難カードを記入



講話の様子



まち歩きの様子



ワークショップの様子